

じぶんものがたりを作ろう ～生活科・道徳の学習から～

射水市立作道小学校 第2学年

1 はじめに

2年生の生活科「じぶんものがたりを作ろう」の学習において、自分の生い立ちを調べる中で、自分の成長や自分の大切に気づき、家族や周りの人に対する感謝の気持ちを養いたいと考えた。本実践では、家庭と連携し、道徳の学習とも関連させながら学習を進めた。

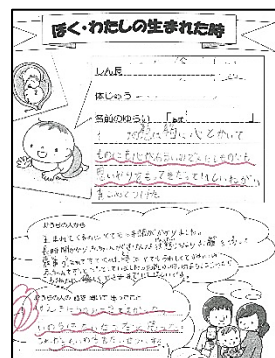
2 実践の概要

① 単元の導入 絵本「おへそのあな」(作:長谷川義史 BL出版)読み聞かせ

この絵本は、お母さんのお腹の中にいる赤ちゃんの目線で、赤ちゃんが生まれることを楽しみにしている家族の様子を描いている。読み聞かせを聞いた感想を話し、その際、お腹の赤ちゃんの大きさが3cmくらいの頃からもう心臓が動いていること、10か月もお腹にいること等も伝えた。「お腹の赤ちゃんは外の声が聞こえているの?」「僕も妹が生まれる前にお母さんのお腹を触ったことがあるよ」「生まれる前からおじいちゃんが張り切っていておもしろい」など興味をもって聞いていた。また、母親が妊娠中の様子については知らない子供がほとんどなので、「僕たち3cmだったの!?!」「お母さんは10カ月も大変だね」など驚いた様子だった。

② 自分の生まれた時の身長・体重、生まれた時の様子、名前の由来を調べる

生まれた時の体重や身長を確認し、実際の重さ(約3kg)を持ってみたり、成長した大きさとして友達を抱っこやおんぶしたりしてみる活動を行った。お母さんが赤ちゃんをお腹に抱えたまま生活をしていたことを想像したり、自分の成長を実感したりすることができた。また、壮絶な出産の様子や涙が止まらなかった話、保育器に入っていて入院していたため、しばらくお母さんと離れて生活していた話等、一人一人の出産時の様子を聞き合った。そして、自分の名前にどんな意味が込められているのか、名前を決めるまでの経緯等を紹介し合った。「24時間以上も痛い思いをして産んでくれて、ありがとうって言いたい」「名前は一生変わらないものだから、すごく一生懸命考えてくれたんだと思う」「名前の由来にあるような人になって、お母さんやお父さんを助けてあげたい」など、家族への感謝の気持ちがあふれていた。



③ 0才の時の様子を調べる

写真や当時使っていたもの、手形・足形等を見せ合いながら、少しずつできるようになることが増えていく様子を確認した。救急車で運ばれた話、入院した話等を聞いてきた子供もいて、家族に助けられ、大切に守られて過ごしていたということに気づくことができた。

④ 道徳の時間 資料「たんじょう日」の学習

自分の生まれた時の話を調べた後だったので、同じように主人公に思いを寄せて考えることができた。自分について調べた時は、親の気持ちまで考えるに至らなかったが、資料を通して、母親の喜びと心配な気持ち、辛い思いをしながら我が子のためにがんばろうとする愛情に気付くことができた。その後「誕生日」とはどんな日であるかを話し合うと、『産まれてきてくれてありがとう』と『産んでくれてありがとう』がつながる日「育ててくれて、幸せにしてくれてありがとうという日」など、誕生日を大切にしたいという思いが芽生えた。

⑤ 1～2才、3～6才、1年生の時と順に調べ、アルバムにする

今の自分と比べながら、できるようになったことや幼いころから変わっていないこと等に気づくことができた。

⑥ 親からの手紙を読んで、親への手紙を書く

手紙をもらった子供たちは、真剣に手紙を読んでいた。親からの手紙には、出産した時の嬉しい気持ちや今の成長を嬉しく思っているメッセージ、子供への感謝の気持ち等が綴られていた。親への手紙には、「いつもおいしいご飯を作ってくれるおかげで、元気に学校に行けているよ」「大切に育ててくれてありがとう」「これまで大変な思いをたくさんしたから、これからはお母さんをたくさん助けるね」など、一人一人がこの学習を通して感じた感謝の気持ちとして綴っていた。

3 この学習を通して

生活科と道徳を関連させて授業を行ったことで、道徳の資料に自然に心を寄せ、自分事として捉させることができた。自分は家族にたくさん愛されて成長してきたということを2年生なりに感じ、感謝の気持ちを表現しようとしている姿が印象的だった。自分を産み、育ててくれた親の気持ちを考えることで、一人一人がこれからがんばろうとする意欲にもつなげることができた。